

電子情報工学科 江口研究室が 国際会議 ICICIC2016 において Best Paper Award を受賞



8月15日(月)から中国・ハルピンのハルビン工程大学 (Harbin Engineering University) で開かれた ICIC International 主催の国際会議 The 11th International Conference on Innovative Computing, Information and Control (ICICIC2016: <http://www.icicconference.org/>)において、本校工学部電子情報工学科の江口研究室(著者: 江口啓 教授、物質生産システム工学専攻博士課程1年の都 旺緑さん、電子情報工学専攻修士課程2年の安部寛二さん)の論文が、ベスト・ペーパー・アワードを受賞しました。本国際会議では、世界各国から500件を超える論文の投稿があり、うち269件の論文が採択・発表されました。また、国際会議 ICICIC2016 では、本学の協定校であるタイ・モンクット王ラカバン校(KMITL)の准教授で、江口教授のご友人でもあるティラワット・テマニー先生も、見事、受賞を果たされました。



江口研究室の江口教授・都さん・安部さんの研究チームは、国際会議で今年度2回目の受賞となります。江口教授は、今回の成功は、物質生産システム工学専攻博士課程1年の都 旺緑さん(韓国・啓明大学出身)、電子情報工学専攻修士課程2年 安部寛二さん(香椎工業高校出身)との3人の協力によるものだと語っています。今回の国際



会議においては、電子情報工学科の江口教授が論文題目「Design of an Inductor-less DC-AC Inverter Using a Step-Down Fibonacci Sequence Generator」を発表しました。この研究は、変圧器を用いずに降圧変換することで AC 100V を生成する、超小型 DC-AC インバータ回路に関するものであり、無機エレクトロ・ルミネッセンスなどの次世代発光体のポータブル化に寄与するものです。今後も学生との協力の下で、素晴らしい研究成果が出ることを期待しています。